

# 専大スポーツ

【専大スポーツ】 <https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 434

専大スポーツ  
編集部  
公式WEB



Twitter @sensuponow  
Instagram sensuponow



佐々木部長(左)、齋藤監督(右)と握手を交わす菊地 撮影=高橋尚之・経営3

## プロ野球 ドラフト会議

### 菊地 吏玖

# 「エースと呼ばれる存在に」

## 専大からドラフト1は25年ぶり

10月20日に行われたプロ野球ドラフト会議で、野球部の菊地吏玖(経営4・札幌大谷高)が千葉ロッテマリーンズから1位で指名された。

東都大学野球では2部リーグだが、ゲームメイ

ク能力の高い右腕に白羽の矢が立った。菊地(1位指名は)予想

外。これまでプロを目指して野球をやってきたので、うれしい気持ちでいっぱい」と笑顔で心境を語った。

菊地だが、齋藤正直監督



秋季リーグ戦で力投する菊地 撮影=相川

## 高いゲームメイク能力が魅力

佐々木重人部長とがっちり握手を交わした。千葉ロッテについて「球界を代表する右投手がおり、投手コーチとしての実績もある吉井理人監督の下で野球ができるのは光栄」と話した。専大の先輩・佐藤真真投手(令3経営)も所属しており、「今のピッチングスタイルがあるのも佐藤先輩のおかげ。また同じチームで野球ができるのがうれしい」と語った。「チームのために腕を振り続け、勝利に貢献できるように全力で戦ってきたい。いずれは千葉ロッテのエース」と呼ばれる存在になりたい」と意気込みを語った。OBでは、福永裕基さん(平31文・日本新薬)が中日ドラゴンズから7位で指名された。(野見山拓樹・文3)



チームメイトが胴上げて祝福 撮影=相川直輝(文3)

### 1部復帰ならず

東都大学野球秋季リーグ戦1部・2部入れ替え戦11月3、11日、新宿区・神宮球場

1部6位の駒大と対戦した専大は、初戦を3-5で落としたが、2回戦は西館昂汰(経営3・筑陽学園高)が完投し4-3で勝利。17年春以来の1部へあと1勝に迫ったが、3回戦は1-8で完敗し、1部復帰の夢はまとも打ち砕かれた。運命の3回戦。大一番に強い西館が先発し、菊



力投した西館(3回戦)

地吏玖で締めるプランで臨んだが、初回から駒大打線が容赦なく襲いかかり、二回が終わって0-5。打線も反撃の糸口をつかめなかった。齋藤正直監督は「入れ替え戦が大きな壁になっている。4年次生の思いをつなぎ、研鑽して再び挑戦したい」と話した。専大最後の試合を終えた。(高橋=写真も)

## 箱根駅伝予選会 総合8位



3年ぶりに東京都立川市の市街地コース(ハーフマラソン)で行われた箱根駅伝の予選会。専大は10時間46分56秒の総合8位で3年連続71回目の出場を決めた。

個人8位と力走した木村曉仁は日本人トップでゴール。専大



大幅に自己記録を更新した栗江



昨年に続いてチーム2位と健闘したダンカン

### 予選会出場選手

順位	選手名	学部学年	出身校	時間
8	木村 曉仁	経営3	佐久長聖高	1:02:32
23	ダンカン キサイサ	経営2	大分東明高	1:03:14
64	高瀬 桂	経営4	鳥栖工高	1:04:10
91	野下 稜平	経済3	鳥栖工高	1:04:39
103	水谷 勇登	経営3	敦賀気比高	1:04:43
119	成島 航己	経営4	専大松戸高	1:04:51
122	千代島 宗汰	文2	鳥栖工高	1:04:55
173	栗江 倫太郎	経営3	三浦学苑高	1:05:41
182	富永 裕憂	経営4	鎮西学院高	1:05:44
228	吉岡 拓哉	経営4	我孫子高	1:06:27
293	山村 啓仁	経済3	藤沢翔陵高	1:07:26
325	山城 弘武	経営3	コザ高	1:08:00

本戦の目標はもちろんシード権獲得。新春の箱根路に向け、部員たちは闘志を燃やしている。(相川)

では座間紅苺さん(平20商)以来、16年ぶりの快挙となった。レース序盤、5km地点では総合16位と大きく後れを取った専大。冷静にレースを進めていた木村は、主務の吉本優成(経営4・須磨学園高)が出した順位ボードを見て、15km地点からギアを上げた。「チーム順位が10位以下だったので、自分がタイムを稼がないといけないと思った」と早めに仕掛けた。「目標としていた日本人トップを取る事ができてうれしい。本戦は全く違う戦いになると思うので、しっかり準備したい」と気持ちを切り替えた。長谷川淳監督はレース前、「(ゴールの)国営昭和記念公園に入ってから勝負。そこまでは余裕があっても力をためておくように」と指示。この作戦が奏功し、3~8番手の選手が15km地点以降、20位以上順位を上げた。中でも野下稜平と水谷勇登が昨年の予選会同様、安定感のある走りを見せると、栗江倫太郎は自己記録を3分近く更新。初出場の千代島宗汰も好走した。